

第3回国連防災世界会議にかかる国内準備会合（第4回）議事概要

日時：平成26年10月31日（金）15:00～17:00

場所：日本消防会館 大会議室

出席者：今村、金谷、重川、神余、林座長代理、目黒、弓削、柄澤、堂道（植澤代理）、富田（山澤代理）、名執、辻村、伊藤（寺内代理）、佐々木（岡田代理）、千葉（風早代理）、若生（宮原代理）、村田、杉本の各委員

西村内閣府副大臣、井上内閣府審議官、日原政策統括官、兵谷官房審議官、齊藤参事官、中島企画官（以上、内閣府）、豊田国際協力局審議官、高田地球規模課題総括課首席事務官（以上、外務省）他

【西村副大臣による冒頭挨拶】

【ポスト兵庫行動枠組の策定に向けた検討について】

事務局より、世界会議政府間準備会合ビューローの共同議長が作成した、ポスト2015年防災枠組ゼロ・ドラフト（ポスト兵庫行動枠組のたたき台）の概要について説明を行い、各委員よりご意見をいただいた。主な意見は以下のとおり。

- 民間セクターも含めた様々なステークホルダーが協力して取組む仕組みや、生涯に渡り防災教育を受けられる仕組みが盛り込まれていることを大変評価する。
- 災害リスクの理解を助けるものとして、震災遺構の活用について言及することを検討いただきたい。
- 災害リスクの理解が柱の一つとして入り、様々なデータの解析やその共有化などが盛り込まれていることはとても有意義である。
- 防災に関する数値目標が設定されていることは評価できるが、これらをポスト2015年開発アジェンダ（SDGsや新たなMDGs）に入れ込むことは最重要課題である。
- 複合災害は、過去の実績とかデータでは対応できないものであり、東日本大震災の教訓として日本からの重要な発信となるため、複合災害とその備えの重要性を強調してほしい。
- “people-centered preventive approach” と表現が盛り込まれてはいるが、日本がこれまで主張してきた「人間の安全保障」という表現そのものが記載されるようがんばってほしい。
- いろいろなことが少しずつ重複しながら盛り込まれているが、経済、社会、開発全体を、災害リスク削減の観点から、一貫したアプローチで計画・実施・モニタリングしていくことが重要。
- 日本政府がこれまで主張していた点、特にビルド・バック・ベターと、防災投資の2点が色濃く反映されていることを評価するとともに、その中身がより深く、より強く記載されるように引き続き取り組まれない。
- ビルド・バック・ベターが明確に位置づけられるとともに、それを推進している国際メカニズムの国際復興支援プラットフォーム（IRP）の名称が盛り込まれていることを評価する

【関連事業の準備状況について】

世界会議の本体会議と平行して行われる関連事業の準備状況について、仙台開催実行委員会の取組や、東北4県及び兵庫県の取組について報告があり、その後、意見交換が行われた。主なものは以下の通り。

（仙台市）

- ・ 関連事業として、シンポジウムやセミナー、展示の募集を7月から9月にかけて行ったが、国内の民間企業、大学、NPO、さらに海外からの申込みを含め、総数で700を超える申込みがあり、会議への関心が非常に高いことがうかがえた。
- ・ エルパーク仙台では「女性と防災」、仙台市市民活動サポートセンターでは市民協働といったテーマで、NPOや地域団体が発表を行う予定。
- ・ 仙台メディアテークにて様々な展示が行われるほか、1階にて、東北の防災・復興パビリオンとして、仙台市、東北の被災4県、宮城県内の市町村による展示を行う予定。
- ・ スタディツアー（被災地の公式視察）については、東北の各県の協力も得ながら、現在、25コースの視察先を設定している。
- ・ 東北の魅力を発信するエクスカーションについては、被災地における復興の現状や風評被害の払拭といった面も含め、6コースを設定している。
- ・ 語学ボランティアについては、予想の2倍以上の申込みがあり、現在、410名の方に対して研修を行っているが、この応募数からも地元における関心の高さがうかがえる。

（青森県）

- ・ 東北の防災・復興パビリオンでは、県を挙げて取り組んでいる「防災公共の取組」と、青森から岩手、宮城にかけた海岸沿いの三陸復興国立公園での防災の取組を紹介する。
- ・ また、青森県内では、3月15日、八戸市で「青森から「防災公共」の発信～人命を守ることを最優先とする「防災公共」の取組～」をテーマとしてフォーラムを開催予定。
- ・ エクスカーションでは、八戸海岸地区を中心に復興の取組を紹介するとともに、雪の回廊にもなっている八甲田山や、ねぶたの展示施設などもご案内したい。

（岩手県）

- ・ スタディツアーでは、「希望のかけ橋」と呼ばれている陸前高田の大規模な嵩上げ事業などの復旧・復興の現場とともに、奇跡の一本松や三陸鉄道、「釜石の奇跡」と呼ばれた復興教育の現場なども予定している。
- ・ ゼロ・ドラフトにおいて、文化遺産を守ることの必要性が盛り込まれているが、一関市内で「文化財と防災」をテーマとするシンポジウムを開催する予定であり、その際、世界遺産・平泉中尊寺での防災訓練の視察も行う。
- ・ 陸前高田市において、「ノーマライゼーションという言葉のいらぬまちづくりに向けて(仮)」といったフォーラムを実施予定。7カ国語のパンフレットも用意している。

（宮城県）

- ・ 仙台市内及びその隣の多賀城市内において7件のシンポジウムを開催する予定。女性の参画、まちづくりやインフラ、中小企業や農業に関するものまで、幅広く行う。
- ・ 夢メッセみやぎにおいて、内閣府及び日刊工業新聞との共催で、防災産業展を開催予定。

- ・ スタディツアーでは、防災産業展、女川原子力発電所、仙台空港、仙台港等を巡るツアーを企画している。
- ・ エクスカーションでは、津波被害を受けた沿岸部や、岩手県と共同で平泉、松島をめぐるツアーを企画している。

(福島県)

- ・ 複合災害からの復興に取り組んでいる本県の姿を国内外に正確に情報を発信し、ご理解をいただき、根強く残る風評を払拭するのが基本的な考え方である。
- ・ スタディツアーについては、福島第一原子力発電所、地震・津波による被害、放射性物質の検査状況等のコースが設定されている。
- ・ 県民シンポジウムとして、ふくしま復興を考えるシンポジウム、国際シンポジウムとして、「複合災害からの復興と災害復興学の確立」をテーマとしたシンポジウムを開催予定。

(兵庫県)

- ・ 阪神・淡路大震災から20年経過し、その復興の取組の検証、また兵庫県としてのHFAへの取組の評価を進めており、これらの成果を国連防災世界会議において発信したい。
- ・ 関連事業については、人と防災未来センターを中心に参加し、また神戸市内に立地をしている防災関連機関もサイドイベント等を実施する予定であり、その支援を行う。

(委員の発言)

- 日本では、市民力、つまり市民がものすごくレジリエンスがあるわけで、それによって日本の災害復興は成り立っている。日本人がレジリエンスを一体どういうふうに高めてきているのか、世界に示すべき。
- 国際会議においては、NGOやNPO、市民社会にきちっと対応することが重要である。
- 復興ではスピードも大事であり、仙台空港、道路など、ものすごいスピードで復興できた仕組みを現地から伝えることも重要。
- 課題先進国である我が国は、うまくいっている部分だけではなく、少子高齢化の中で抱えている防災の難しさなど、うまくいっていない部分も併せて示すことが、国際的な信頼を高めることになるのではないか。

(以上)